

.....編集後記.....

◆紅葉の美しい秋となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。つくばでは雨のほとんど降らないさわやかな秋が続いております。先日、街路樹の桜の色づいた葉を集めているご婦人の集団を見かけました。「見て、こんなにきれいな黄色なのに虫が食っていて残念」などと話していましたが、押し絵にでもするつもりでしょうか。

◆先日、面白いものを手に入れたのでご紹介します。地質や地形の情報が理解されにくい原因の一つは、立体が平面に図示されているからだと思います。平面図が簡単に立体視できれば地質の理解が急速に高まるでしょう。アメリカでは平面プリズムを使用したメガネが発明されて販売されています。値段は一つ120円程度と非常に安価なものです。このメガネを使うと普通に色刷りされた絵のオレンジなどの明るい色は飛び上がり、青色などの暗い色は沈んで立体的に見えます。地形図を立体視するためには、高度によって色分けすればよいわけで、小学生でもできるでしょう。同様な図を作れば褶曲構造や断層の理解が容易になります。しかし、現時点では日本で発売されていませんので、購入方法については当方にお問い合わせください。

◆さて、今月号は資源関連3編と地震関連1編を中心に誌面を構成しました。資源関連については中嶋氏の「21世紀は資源枯渇の世紀か」は資源の供

給の問題が歴史的に解説されており、鉱物資源を外国に依存している我々には「目から鱗」の話で、この一文を読むと鉱物資源の調査・研究は日本から鉱山が無くなったとはいえ、ますます重要であることが痛感させられます。古い言葉かもしれませんがまさに「資源は国家なり」です。ぜひ、ご一読下さい。

◆茂木氏の兵庫県南部地震の事前予測に関する話は今回で完結しました。結論的には日または月単位の予測は困難だったとのこと。現在、多くの研究者がこの問題に取り組んでいます。この問題が解決されて地震による人的災害が軽減される日が早く来ればいいなと思います。

◆地球科学の凋落に未だ歯止めがかからないようで、地質学会では普及情報誌を作りたいとのこと。地球科学の復権の方策には色々あると思います。今回は野田氏の意見を掲載しました。要は純粋学問と社会生活への応用が一体にならなければならぬということです。

地球科学は多くの成果を挙げてきたことは否定しませんが、その成果は蟻の巣ありのような所に蓄えられ、蟻(学者)以外には誰も見ることもできなかったことに問題があるのではないかと私は思います。色々なご意見をお寄せください。それではまた。
(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(谷田部信郎・吉田朋弘)

〒305-8567 つくば市東1-1-3 地質調査所
地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュース

第518号 1997年 10月号

定価¥785(本体価格¥748) ㊦実費

1997年10月1日 発行

編集

発行人

発行所

印刷

工業技術院地質調査所
株式会社 実業公報社
代表者 林 光生
株式会社 実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8
Tel. (03) 3265-0951(代表) ㊦102-0073
振替口座 00110-6-32466
麹町局私書箱第21号
株式会社 ケイ・トゥー・ワン

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

© 1997 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。